

光明禪寺

第485号

令和五年二月

現在に活きる

仏の教え

どんな時にも必ず、出来ることが残っている。

人の一生に 厄年はない 躍進とっしんの「やく」と考える

大事なのは、不調になったというところではなく、その時期をどう過ごすかにある。

自分が使っている言葉の影郷音を一番受けているのは自分なんだ

やってやろうじゃない！

電話 1P 221427 (20線) 4391090 79819123 FAX 2413519

(県・市文化財指定安葬所) 〒八九一〇〇ニ指宿市十町南迫田二七六八

二月の行事

一、南運・星祭、やく払い法要

節分三日 午前10時 昼二時 夜7時30分

立春四日 午前10時

コロナの為に豆まきはありません

一、暁天竺禪

廿二日 曜 (十二日) 朝六時
廿三日 曜 (十九日)

一、釋迦如来涅槃会法要

十五日 二時

一、地藏尊・水子供養

二十四日 二時

訃報

湯の浜地区の彌永 圭造様が 病気で
療養中でしたが、一月九日73歳を以て
永眠致しました。

大牟礼地区の今奈良 利治様が 病気を
療養中でしたが、一月二十二日92歳を
以て 永眠致しました。

ここに故人の御冥福を切に

お祈りします。

・節分ってなあに

春・夏・秋・冬の四季の変わり
目を節分というのです。今では二月
の初めごろの冬から春への変わりめ
の立春の前日の日を節分というよう
になりました。冬から春へと新しい
季節を迎えるにあたっては、悪い鬼や

悪い病気が家の中に入らないよう
に豆をまいて、悪い鬼や魔物を追
い払う行事を昔から行ってきた
のです。今でも「節分」には、「鬼は
外 福は内」と、大声を出して豆
をまくのは、そのためなのです。

人間のところの中には、よいことを考
えたり行ったりするところもありま
すが、その反対に、なまけたいといふこ
ころ、少しでも楽をしたいといふこ
ろ、人をうらやんだり、ねたんだりす
るところもあるのです。このようにな
悪いところや、なまけごころを自分
のこころの中から追い払って幸せを
めざすために、節分では豆をまくの
です。自分のこころの中の悪い鬼を
追い出して、清らかなこころを持ち
つづけるようにしますよう。「鬼は外

福は内」と、大きな声でいつてみま
よう。鬼は、障子紙を舌でなめて、
穴をあけて家の中をのぞいたのです。
その鬼の目をめがけて「鬼は外、鬼
のめん玉ぶっぶせ」といり豆をなげま
した。いり豆は、芽がでないからです。
めざしは、目をつきさして見えないよ
うにしたからです。人間は自分の
生活を鬼から見られるのがこわか
ったのですわ。

・節分には、どうして豆をまくの
節分というのは、昔のこよみでは冬
と春のさかい目のことで、寒い冬が
終わって暖かい春がやってくる前の
夜の、ことなのです。昔は、この節分の
夜には鬼がやってくる信じられて
いたので、だれでも寒い冬より、

暖かい春のほうが好きでしょう。暖
かく、草花も芽をだし、サクラも咲
く春を、昔の人も今の人も待っていま
すわ。この待ちに待った春をお迎えし
ての前の夜に、あのおそろしい角を
もった赤鬼や青鬼が家にやってき
たら、みんなはどくしますか。いやで
しょう。追いはらってしまいたい気持
ちになるでしょう。昔の人は鬼たち
は「いり豆」は芽がでないので、いちばん
きらいなものと思っていたので、鬼のく
るといわれている節分の夜に「いり豆」
をなげながら、「福は内 鬼は外」と
さげんで、鬼が家の中に入らないよう
に祈ったのです。場所によっては、「福
は内 福は内」しかさげばない地方もあ
ります。これは「鬼は外」とさげぶと
鬼がおこって戻ってきてしまうのをさ

けるための工夫です。農家の人にとって豆は大切なものです。ですから、その豆に幸福を招く願いをこめたのでしよう。

・鬼ってなあに。ほんとうにいるの

鬼はいますね。みんなのところの中に
もいるのです。「あの子をいじめてやれ」「ッ
しごまかして、ウソをついておこせ」「他人の
ものだけど、だまって取ってもわかんない
だろうし」となどと考え、「いじめたり」「ご
まかしたり」「盗んだり」しているときは、
その人はよい人間ではなく鬼のような人
鬼のこころを持った人ですから、その
人は鬼です。人間は弱いのです。な
まけごころ、おこるごころ、おろかなご
ころに負けやすいのです。なまけごころ
が出てきて勉強を途中でやめてしまっ

たりしたときは、こころの鬼が勝って
しまったのですから、その人は鬼に変
わってしまったといえますね。どんな
ときでも、なまけない、おこらない、お
ろかなごころを起こさないで、世のた
め人のためになることに努める人は
鬼ではなく人間です。

なまけごころやおこるごころが、いっば
いの人は、鬼のようになり顔になり
ますから、気をつけましょうね。

そういうこころを、けっしておこさな
いと誓うため、花嫁さんは、鬼の
角をかくす、つのかくして、いうのを頭
にかぶるんですよ。

こころに思っていることは、必ず頭
やことばになって出てくるものですか
ら、気をつけましょうね。